平成26年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月７日

上 場 会 社 名	株式会社ＡＯＫＩホールディングス		上場取引所　東
コ ー ド 番 号	8214　URL http://www.aoki-hd.co.jp/		
代　表　者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名) 青木　彰宏	
問合せ先責任者	(役職名) 取締役副社長	(氏名) 田村　春生	(TEL) 045-941-1388
四半期報告書提出予定日	平成25年11月11日	配当支払開始予定日	平成25年12月９日

四半期決算補足説明資料作成の有無　：有
四半期決算説明会開催の有無　：有　（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

１．平成26年３月期第２四半期の連結業績（平成25年４月１日～平成25年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年３月期第２四半期	73,381	8.8	3,272	6.2	3,648	11.8	1,946	2.4
25年３月期第２四半期	67,425	8.8	3,083	34.2	3,263	15.8	1,901	23.7

(注) 包括利益　26年３月期第２四半期　2,040百万円(15.2%)　25年３月期第２四半期　1,770百万円(14.7%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年３月期第２四半期	46.92	―
25年３月期第２四半期	45.63	45.58

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年３月期第２四半期	190,954	112,936	59.1
25年３月期	193,664	111,484	57.5

(参考) 自己資本　26年３月期第２四半期 112,936百万円　25年３月期 111,405百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年３月期	―	20.00	―	25.00	45.00
26年３月期	―	30.00			
26年３月期(予想)			―	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成26年３月期の連結業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	177,450	10.5	19,300	13.0	19,800	12.6	10,850	10.4	261.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：有

③　会計上の見積りの変更　　：有

④　修正再表示　　：無

（注）第１四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料４ページ「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年３月期２Ｑ	45,624,752株	25年３月期	45,624,752株
②　期末自己株式数	26年３月期２Ｑ	4,056,598株	25年３月期	4,347,870株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年３月期２Ｑ	41,489,521株	25年３月期２Ｑ	41,671,220株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料４ページ「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明会資料について）

・当社は、平成25年11月22日(金)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

頁

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）経営成績に関する説明 ……2
（２）財政状態に関する説明 ……3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……4
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 ……4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……4
３．四半期連結財務諸表 ……5
（１）四半期連結貸借対照表 ……5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……7
四半期連結損益計算書 ……7
四半期連結包括利益計算書 ……8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……9
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項 ……10
(継続企業の前提に関する注記) ……10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) ……10
(セグメント情報等) ……10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策などにより円高是正や株価上昇の動きが継続し緩やかな回復傾向で推移いたしました。また、個人消費は一部で明るい兆しが見え始めたものの、所得環境の改善の遅れや原材料価格の上昇、消費税増税後の景気減速懸念などにより、先行き不透明な状況が継続しております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は733億81百万円（前年同期比8.8％増）、営業利益は32億72百万円（前年同期比6.2％増）、経常利益は36億48百万円（前年同期比11.8％増）、四半期純利益は19億46百万円（前年同期比2.4％増）と増収増益になりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

（ファッション事業）

ＡＯＫＩでは、「プレミアムウォッシュスーツ」、「熱ブロックスーツ」、「プレミアムライトスーツ」等のクールビズ関連の機能性スーツやその他クールビズに対応した商品の品揃えをメンズ及びレディスともに強化いたしました。さらにビジネスウェアの多様化に対応し、ジャケットとスラックスの着回しで無限のコーディネートが可能な「ウルトラクロススーツ」を新たに展開し、ご好評をいただきました。店舗面では、未出店県であった鹿児島県への２店舗を含め、積極的に24店舗を新規出店する一方、移転による４店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は480店舗（前期末460店舗）となりました。

ＯＲＩＨＩＣＡ（オリヒカ）は、引き続きジャケット・スラックススタイルの着回し提案を強化するとともに、店舗スタッフの教育に注力し営業力の向上を図りました。店舗面では、中京・関西地区を中心に話題のショッピングセンター等に11店舗を新規出店する一方、１店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は116店舗（前期末106店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果及びジャケット・スラックス、ワイシャツ等のクールビズ関連商品やレディス商品が好調に推移したこと等により、売上高は435億８百万円（前年同期比8.2％増）、営業利益は新規出店に伴う費用や今後の出店に備えた人件費等の先行費用が増加し６億26百万円（前年同期比40.7％減）となりました。

（アニヴェルセル・ブライダル事業）

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、既存店の活性化として多様化するウエディングに対するニーズやトレンドに応えるため２施設のリニューアルを実施するとともに、オリジナルのエンゲージリング及びマリッジリングを展開いたしました。また、オープン以来初めてとなるアニヴェルセル表参道のカフェをリニューアルし、新たに「アニヴェルセル カフェ＆レストラン」としてスタートいたしました。

これらの結果、施行組数の増加及び平均組単価の上昇により、売上高は119億54百万円（前年同期比2.9％増）、営業利益は平成26年２月開業予定の「アニヴェルセル みなとみらい横浜」の開業準備費用の発生等により８億92百万円（前年同期比27.9％減）となりました。

（カラオケルーム運営事業）

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、夏の販促企画として有名アーティストや人気キャラクター、テレビ局等とのコラボレーションキャンペーンを実施し認知度の向上と来店促進を図りました。また、16店舗のリニューアルを実施するとともに夏季限定メニューの提案を強化するなど、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、九州初出店となる福岡県への２店舗を含め９店舗を新規出店した結果、当第２四半期末の店舗数は、152店舗（前期末143店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果等により、売上高は78億56百万円（前年同期比9.5％増）、営業利益は５億６百万円（前年同期比20.2％増）と増収増益になりました。

（複合カフェ運営事業）

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、夏季限定メニューの提案を強化するとともに、オンラインダーツ等のアミューズメントコンテンツ拡充のために18店舗のリニューアルを行い、既存店の活性化に注力いたしました。また、ダーツグランプリの開催やゲーム関連企業とのタイアップ企画等により来店促進を図りました。店舗面では、初の都心駅前立地で女性専用エリアを設けた池袋東口駅前店をはじめ９店舗を新規出店した結果、当第２四半期末の店舗数は220店舗（前期末211店舗）となりました。

これらの結果、避暑利用等により客数が増加し、既存店が好調に推移したこと及び新規出店効果により、売上高は100億57百万円（前年同期比19.4％増）、営業利益は10億77百万円（前年同期比61.0％増）と増収大幅増益になりました。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ27億９百万円減少し、1,909億54百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が新規出店等により27億54百万円増加した一方、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により43億86百万円、売掛金が季節的要因等により52億42百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ82億４百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により42億27百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ54億94百万円増加いたしました。

（負債）

流動負債は、短期借入金が40億円増加した一方、買掛金が季節的要因等により26億７百万円、未払法人税等が法人税等の支払いにより52億91百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ41億81百万円減少いたしました。固定負債は、負ののれんが償却により４億79百万円減少した一方、新規出店等により資産除去債務が１億97百万円、退職給付引当金が１億21百万円及びリース債務等のその他が１億77百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ19百万円増加いたしました。

（純資産）

純資産の部は、利益剰余金が四半期純利益及び剰余金の配当により９億14百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ14億51百万円増加しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末と比べ43億86百万円減少し、180億９百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により使用した資金は、18億48百万円（前年同期は９百万円）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が32億65百万円、減価償却費が28億75百万円となった一方、法人税等の支払額が72億86百万円となったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、72億４百万円（前年同期は72億24百万円）となりました。これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得が60億46百万円、敷金及び保証金の差入が11億36百万円となったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、46億66百万円（前年同期は９億84百万円）となりました。これは主に、長期借入金の約定返済が28億48百万円、配当金の支払いが10億30百万円及びリース債務の返済による支出が９億４百万円となった一方、短期借入の純増加額40億円及び長期借入を50億円実施したことによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第２四半期連結累計期間の実績は、売上高は概ね計画どおり、また、セグメント利益（営業利益）は各事業とも予想をやや上回る状況で推移いたしました。通期連結業績予想につきましては、これをベースに出店計画等の見直しを行い、下記のとおりそれぞれ上方修正いたしました。新規出店はファッション事業で70店舗を88店舗に、カラオケルーム運営事業で15店舗を18店舗に、複合カフェ運営事業で25店舗を23店舗に期初からそれぞれ変更しております。

平成26年３月期　通期連結業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（Ａ）（平成25年５月10日公表）	175,800	18,600	19,100	10,300	248.04
今回修正予想（Ｂ）	177,450	19,300	19,800	10,850	261.28
増減額（Ｂ－Ａ）	1,650	700	700	550	
増減率（%）	0.9	3.8	3.7	5.3	
前期実績（平成25年３月期）	160,589	17,078	17,590	9,832	236.51

なお、セグメント別業績は、以下のとおり予想しております。

【平成26年３月期のセグメント別予想】

	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	連結
売上高（百万円）	114,600	26,200	16,750	19,850	177,450
前期比（%）	110.3	107.6	110.1	116.0	110.5
セグメント利益（百万円）	13,200	2,650	1,590	1,560	19,300
前期比（%）	110.3	90.8	106.5	153.7	113.0

（注）セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、その他の事業及び連結上の調整額です。

※上記の業績予想は、現時点で当社が入手している情報等に基づいて判断したものであり、実際の業績は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

従来、当社及び連結子会社は、平成10年４月１日以降取得した建物（建物附属設備を除く）以外の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却の方法について定率法を採用しておりましたが、第１四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、子会社における出店数の増加や出店形態、出店地域等当社グループを取り巻く環境の変化に伴い、今後の有形固定資産の使用実態を見直した結果、その投資効果が長期にわたり安定的に実現すると見込まれることから、減価償却の方法を定額法にすることにより、取得原価を使用期間に均等に期間配分することで期間損益計算をより適正に行うことができると判断したものです。

この変更により、従来の方法に比べて、当第２四半期連結累計期間の営業利益は582百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ585百万円増加しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,396	18,009
売掛金	8,235	2,993
たな卸資産	18,908	21,662
その他	8,739	7,415
貸倒引当金	△11	△17
流動資産合計	58,267	50,063
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	44,087	46,919
土地	31,419	31,419
その他（純額）	15,584	16,979
有形固定資産合計	91,091	95,318
無形固定資産	6,497	6,872
投資その他の資産		
差入保証金	8,399	8,395
敷金	18,327	18,999
その他	11,123	11,347
貸倒引当金	△44	△43
投資その他の資産合計	37,807	38,699
固定資産合計	135,396	140,890
資産合計	193,664	190,954
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,273	13,666
短期借入金	3,000	7,000
1年内返済予定の長期借入金	5,696	7,896
未払法人税等	6,403	1,112
賞与引当金	1,936	1,586
役員賞与引当金	200	67
その他	11,697	9,698
流動負債合計	45,207	41,026
固定負債		
長期借入金	25,361	25,313
退職給付引当金	849	971
役員退職慰労引当金	1,640	1,698
ポイント引当金	768	761
資産除去債務	3,707	3,905
負ののれん	694	215
その他	3,949	4,127
固定負債合計	36,972	36,991
負債合計	82,179	78,017

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,586	22,724
利益剰余金	70,624	71,538
自己株式	△5,767	△5,382
株主資本合計	110,725	112,162
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	680	773
その他の包括利益累計額合計	680	773
新株予約権	79	―
純資産合計	111,484	112,936
負債純資産合計	193,664	190,954

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年９月30日）
売上高	67,425	73,381
売上原価	36,588	39,507
売上総利益	30,836	33,874
販売費及び一般管理費	27,753	30,601
営業利益	3,083	3,272
営業外収益		
受取利息	41	49
受取配当金	29	77
不動産賃貸料	398	338
負ののれん償却額	486	486
その他	195	75
営業外収益合計	1,150	1,026
営業外費用		
支払利息	150	155
不動産賃貸費用	365	330
その他	453	163
営業外費用合計	970	650
経常利益	3,263	3,648
特別利益		
新株予約権戻入益	185	5
特別利益合計	185	5
特別損失		
減損損失	96	388
その他	1	－
特別損失合計	97	388
税金等調整前四半期純利益	3,351	3,265
法人税、住民税及び事業税	1,122	1,095
法人税等調整額	328	223
法人税等合計	1,450	1,318
少数株主損益調整前四半期純利益	1,901	1,946
四半期純利益	1,901	1,946

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,901	1,946
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△130	93
その他の包括利益合計	△130	93
四半期包括利益	1,770	2,040
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,770	2,040
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,351	3,265
減価償却費	3,125	2,875
減損損失	96	388
のれん償却額	272	6
負ののれん償却額	△486	△486
退職給付引当金の増減額（△は減少）	65	121
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	60	57
ポイント引当金の増減額（△は減少）	40	△7
受取利息及び受取配当金	△70	△126
支払利息	150	155
売上債権の増減額（△は増加）	4,221	5,242
たな卸資産の増減額（△は増加）	△1,878	△2,754
仕入債務の増減額（△は減少）	△2,803	△2,607
その他	△1,873	△1,629
小計	4,272	4,502
利息及び配当金の受取額	46	103
利息の支払額	△157	△141
法人税等の支払額	△4,876	△7,286
法人税等の還付額	705	974
営業活動によるキャッシュ・フロー	△9	△1,848
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,006	△6,046
無形固定資産の取得による支出	△525	△761
敷金及び保証金の差入による支出	△1,051	△1,136
信託受益権の純増減額（△は増加）	149	479
その他	209	261
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,224	△7,204
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	6,000	4,000
長期借入れによる収入	－	5,000
長期借入金の返済による支出	△3,412	△2,848
リース債務の返済による支出	△760	△904
自己株式の処分による収入	4	453
自己株式の取得による支出	△1	△3
配当金の支払額	△833	△1,030
その他	△12	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	984	4,666
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△6,250	△4,386
現金及び現金同等物の期首残高	23,108	22,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,858	18,009

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第２半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至平成25年９月30日）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

前第２四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	40,226	11,604	7,170	8,424	67,425	―	67,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	13	5	―	20	△20	―
計	40,227	11,618	7,175	8,424	67,445	△20	67,425
セグメント利益	1,058	1,237	421	668	3,385	△302	3,083

（注）１．セグメント利益の調整額△302百万円には、セグメント間取引消去1,657百万円、のれん償却額△266百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,693百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第２四半期連結累計期間においては93百万円です。

当第２四半期連結累計期間(自　平成25年４月１日　至　平成25年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	43,504	11,940	7,853	10,057	73,356	25	73,381	―	73,381
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	13	3	―	19	―	19	△19	―
計	43,508	11,954	7,856	10,057	73,376	25	73,401	△19	73,381
セグメント利益	626	892	506	1,077	3,102	△23	3,078	193	3,272

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業及びフィットネス関連事業を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額193百万円には、セグメント間取引消去2,017百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,823百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、主に回収可能価額が帳簿価額を下回っている遊休資産、損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗及び転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第２四半期連結累計期間においてはそれぞれ258百万円、８百万円及び122百万円です。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項　会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、第１四半期連結会計期間より、有形固定資産の減価償却の方法について、定率法から定額法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第２四半期連結累計期間の「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」のセグメント利益はそれぞれ305百万円、22百万円、74百万円及び119百万円増加しております。